

## 「River basin survey with UTM students」

訪問日時：8月23日

移動手段：バス

訪問場所：Kota Tinggi

### ・Kota Tinggi

この日は UTM の学生さんたち数名とともに、川の水質調査を行った。朝から Johor Bahru を出発し、バスで一時間半ほどの距離にある Kota Tinggi という街へ向かった一行は、まずその市街地を流れる比較的大きなジョホール川の水質調査を行った。調査では、取っ手にひもを結びつけた小バケツで採水し、その水の温度、pH、SS、T-N、T-P、大腸菌群といった項目を全員で手分けして測定していった。その後、一行はバスに乗り込み、次の採水ポイントへ移動して各項目の測定を行い、また移動するということを繰り返し、計6か所で採水した。採水ポイントは当初は5か所の予定であったが、Kota Tinggi Waterfall Resort が追加された。また、Kota Tinggi Waterfall Resort の隣にはボーキサイトと思われる鉱物の採掘現場があり、大きな重機たちが唸りを上げていた。



(Kota Tinggi 市街地での水質調査の様子)

### ・Survey in the farm area

最初の採水ポイントは市街地であったが、その後の調査は専ら農村部での戦いとなった。このエリアでは、採水する川のそばに立ち寄ることができず、橋の上からひも付きバケツをおろして採水するという方法を使った。しかし、この方法では川底の砂が大量

に採取されてしまい、バケツの操作は困難を極めた。それでも採水担当者の努力と川の表面の水を上手くすくい取る技術の進歩により、見事にこの問題は解決された。さらに、橋の下の川で沐浴する現地人と思しき人がいて、採水しても大丈夫なのかという状況のときに、ガイドさんがその人に声をかけ、採水を手伝ってもらうことに成功するという感動的なシーンもあった。筆者はこの水質調査において大腸菌群測定を担当であったが、採水ポイントを回っていくうちに操作に慣れて、すばやくできるようになった。それは全体においても言えることであると感じる。採水ポイントはいずれも道路上であり、大型の自動車が行き来する危険な場所であったが、皆がそれぞれの役割を果たし、円滑に操作を行ったこと、そして何より、「早く帰りたい」という思いが実り、調査は思ったほど時間がかからず無事に終了した。



(採水の様子)

・Palm forest

マレーシアは世界有数のパーム油生産国であり、水質調査を行っていた場所もパームの樹がどこまでも続いていた。調査中にも、パームの実を運ぶトラックがたくさん見受けられ、道路にはトラックから落ちた赤いパームの実があちらこちらに転がっていた。バスで移動している途中、たまたまパーム加工工場が現れたため、バスを降りて門の前からの見学タイムとなった。あまり写真を撮らない方が良いという話ではあったが、各々工場の写真を撮り、最終的には門の前で集合写真を撮ることとなった。アポイントなしで急に押し寄せ、集合写真まで撮っていくという光景は、傍から見れば滑稽であったことだろう。最後に、筆者はこの水質調査を行っている間、とある UTM の学生さんにずっとからまれるという事案が発生していた。ものすごく真面目な様子で話しかけられたため、こちらも必死で相手の言っていることを理解しようと努めていた。しかし、や

がて彼は筆者をからかいにきているのだとわかり、軽く憤りを覚えるが、英語で上手く返すことができず非常に悔しい思いをした。この気持ちを糧に、これからも英語の学習に努めようと思う。



(植えられて間もないものと思われるパームの木々)

[タグ]

マレーシア、水質調査、UTM、Kota Tinggi Waterfall Resort、採水技術